〈 東北・新潟の活性化応援プログラム 〉
2019年 助成団体活動成果レポート

助成団体

竹灯籠まつり 実行委員会

新潟県村上市

プロジェクト名

むらかみ宵の竹灯籠まつり

■地域の課題

村上市街は古の城下町の面影が残る希少な街です。町屋と言われる建物も数多く残り、日々の生活が営まれています。このような街の中でも城下町の風情が色濃く残る黒塀通り（安善小路）で、毎年10月の連休にあたる土曜日・日曜日の二日間、竹の灯籠を並べロウソクに火を灯し、通りの随所で雰囲気に合った和楽器等の生演奏会を行い自由に見学してもらいます。

■当団体の紹介

2万本の竹灯籠に灯りがともり、辺りから聞こえてくる様々な楽器の音色は異次元の世界を創りだします。城下町村上の風情が残る黒塀通りを舞台に、2002年から続く「むらかみ宵の竹灯籠まつり」の継続実施を通じて、住民を結び付け元気な街づくりに繋げています。

プロジェクトの概要

■背景・目的は？

私たちは、日常生活の当り前の町並みや景観を竹灯籠やロウソクの灯り、音楽で演出することで魅力的な街であることに気付いてもらい、この風景を残すことの重要さを知ってもらうことで自分たちの住む街に誇りを持ち、文化の継承へと繋げられることを目的に実施しています。

また、特に子供たちにボランティアで参加してもらい自らの力で街の魅力を創り感じてもらいたいと思っています。魅力的な街は観光客にも支持され交流、関係人口の拡大、経済の活性化、市民力の向上へと繋がり、いつも元気な街になることを願って開催しています。

■具体的な活動は？

- 4月18日
  第1回実行委員会開催　参加者10名
  今年度（第21回）の開催を検討、全員一致でリアルな竹灯籠まつりを開催することに決定
- 5月28日
  倉庫内の竹灯籠の整理　参加者10名
  第2回実行委員会　参加者10名　ボランティア募集チラシ、ポスター作成を決定
- 6月11日
  猿沢竹林組合へ　参加者6名　竹の回収作業を実施
- 6月15日
  第3回実行委員会　参加者11名　竹切りは竹灯籠づくりに変更、他
- 7月22日
  第4回実行委員会　参加者8名　ポスターは新しいデザインに変更することに決定
- 8月24日
  第5回実行委員会　参加者11名　ボランティア募集チラシの完成報告
- 8月29日
  備品の在庫確認を実施　参加者4名
- 9月4日
  コンテナボックスの回収作業を実施　参加者7名
- 9月9日
  第6回実行委員会　参加者13名　ポスター完成、村上駅の協力を確認
- 9月11日
  竹灯籠づくり作業の実施　参加者（含むボランティア）45名
- 9月21日
  第7回実行委員会　参加者13名　折り込みチラシの校正・当日の備品を確認
- 10月3日
  第8回実行委員会　参加者14名　当日の準備確認
- 10月8日
  第21回宵の竹灯籠まつり　初日開催
  来客者　約2,800人　ボランティア参加者約150人
  演奏会場5ヵ所　参加者　8団体
  天候に恵まれ、風が無いのでロウソクの灯も消えず穏やかに見学が出来ました。

- 10月9日
  第21回宵の竹灯籠まつり　最終日開催
  来客者　約3,000人　ボランティア参加者　約100人
  演奏会場5ヵ所　参加者　8団体
  初日以上に来客者は多かったが静かに整然と見学していました。
  2日間共にコロナ感染症対策として各会場入り口の脇本陣にスタンドの消毒剤、各演奏会場にも消毒剤を設置、看板で対策を促しました。ボランティアの飲食には密集しないように注意を喚起し、個別包装、ペットボトルで対応。用意した軽食は足りないくらいでした。
- 10月10日
  後片付け　参加者（含むボランティア）40名
  生憎、雨の中での片付けとなりましたが大勢のボランティアが参加協力してくれました。
  お蔭で予定時間は過ぎましたがほぼ片づけを終えることが出来、最後は万歳で終わりました。
- 11月11日
  反省会　参加者16名

実行委員会のミーティング

竹の回収作業

集めた竹

竹灯籠づくりの作業

■活動の成果は？

4月のスタート時より、コロナ感染症対策を万全にすることを前提に今までの規模、演奏会場、ボランティアへの呼びかけ、告知等全て縮小の形で考え、20年継続してきた竹灯籠まつりを途切れさせないで先ずは開催することを今回の大目標として進めました。

地元小･中･高校への呼びかけや授業開催も行わず、個人参加としての募集のみとしたのですが地元高校の先生が積極的にボランティアの募集をしてくれたり、子供同士が呼びかけて参加してくれたり、特別支援施設の皆さんがグループで参加してくれたりと実行委員が関わらないところで自主的にボランティとして参加してくれる人が多かったようです。

また、3年ぶりであること、コロナ禍の中経済的にもたいへんな時、加えて村上市は8月に大災害を受け未だに復旧半ばであること等を考え、協賛者も少なく協賛金の大幅な減少を覚悟していましたが、今までで最高の額の協賛金が集まりました。当日のご寄付も来場者数からするとかなり少なくなると思われましたが、実際は2日間今までと同じくらいのご寄付がありました。実行委員の頑張りもありますが、2年間開催されなかった竹灯籠まつりへの期待や開催への支持の表れかと思います。実行委員一同感激しました。

2日間天候にも恵まれ本当に記念に残る竹灯籠まつりとなりました。

当初の予定は竹灯籠まつりで最も重要なロウソクの購入費とホームページの改修費に充当させていただく予定でしたが、第19回はオンライン開催、第20回は中止となりロウソクの消費が少なく以前の半分の量の購入となりました。また、ホームページの改修については、一昨年コロナ禍によって先が見えない状況での情報発信にはホームページに頼るしかないと言うことで、自費で出来る範囲の改修を行った関係で、ポスターと折込チラシの制作費に充当させていただきました。

竹灯籠まつり開催のための収入源は協賛金や当日のご寄付です。毎年集まるかどうか不安定な協賛金や寄付金ですので、次回開催のためにロウソク代金分の繰越金を残して継続してきましたが、2回の通常開催が出来なかったことから協賛金、寄付金の収入がなく繰越金も出来ない状況でしたので開催自体を諦めなければならない状況でした。

助成金によって開催には不可欠なロウソクの購入、告知の為の印刷物の作成が予算組みされたので開催へと決心させ、竹灯籠まつりの伝統継承に繋がりました。

まつり当日の準備風景

竹灯籠を設置

火を灯す

まつりの様子

団体からのコメント

実行委員をはじめ竹灯籠まつりを見る人、ボランティアで参加する人、演奏してくれる人、誰もが黒塀を背景に灯される竹灯籠の灯りに魅せられ、会場に響く生の音楽に聞き惚れ、まるで別世界に入り込んだように感じるイベントです。これも城下町村上に残る黒塀通りが背景にあることが重要で、この通りを守り残すために竹灯籠まつりの開催を継続していきたいと思います。

開始から20年を越え当初からのメンバーも少なくなってきました。実行委員の世代交代も含め個人レベルのボランティアから地域、商店街、企業とのタイアップを検討して継続を考えなければならない時になりつつあります。

竹灯籠まつりの開催だけではなくその為の実行委員会の運営、それを取り巻く環境を含めてステップアップして今後も継続していけたらと思っています。

村上市の中心市街地の一画でスタートした竹灯籠まつりも20年の年月を越えました。1年に1度、幽玄な世界を創りだす竹灯籠まつりを今年も見たいと言う想いから続けてきましたが、いつの間にかもっと大勢の人に見てもらいたい、このイベントをずっと残したい、村上のこの景観を残さなければならない、そしてこれからもこの文化を継承してもらいたいと発展、拡大してきました。第17回開催では竹灯籠の数も2万本に、来場者数も2日間で1万人以上、ボランティアも500人を超える規模まで大きくなりました。コロナ感染症拡大で今後の開催について何度か話し合われました。そして今回は、万全なコロナ対策を実施して開催の継続を第一に考え、全ての規模縮小を前提に開催しました。その結果予想以上の成果があった竹灯籠まつりとなりました。

今後アフターコロナも視野に入れ、竹灯籠3千本からスタートした時の「来年も見たい」と言う気持ちを大切にして「継続」を第一の目標として掲げて次回に進みたいと思っています。

人員的には行政、団体、組織等の力を借りず全て個人レベルのボランティアで運営されている会です。出来る人が出来ることを自主的に行って無理を強いることのないように継続してきました。

コロナ前までは年々開催場所の規模、ボランティアの人数、演奏会場の数、来場者数の全てが拡大していましたので実行委員のメンバー不足が一番の課題でした。コロナ禍における今年の開催は、開催規模、演奏会場を縮小しての開催でしたので現状のメンバーで無事開催出来ましたが、今後の開催には実行委員の拡大と決まった人に負担が掛からないように仕事の分担が必要になります。特に若い人の力が継続には必要になりますので、いろいろな場面で竹灯籠まつりの魅力を発信して一緒に作り上げようと呼びかけて行きたいと思います。

より、そう、ちから。
東北電力
© Tohoku-Electric Power Co.,Inc. All Rights Reserved.